

埼玉県白岡市立 篠津小学校



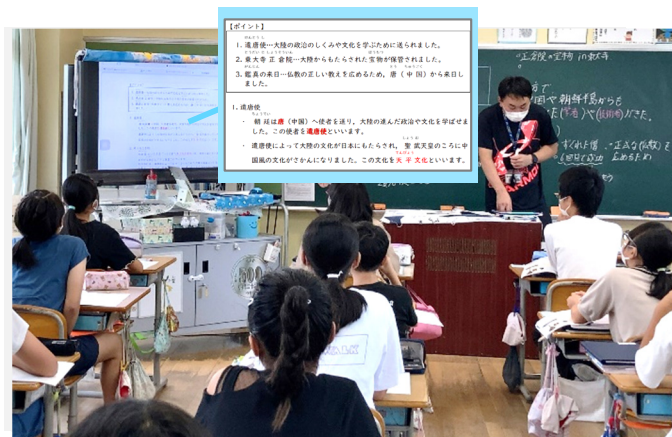
興味を広げ、学習意欲を高める

～ 解説教材で定着・ドリルで確認～

白岡市ではGIGAスクール構想でiPadが児童生徒1人1台整備されました。小学校（本号）と中学校（次号）でのeライブラリを使った実践をご紹介します。

今回は篠津小学校で、授業のまとめに解説教材とドリルで知識の定着を図っている様子をご紹介します。

授業の要点を解説教材で確認



▲解説教材を全員で読み上げます

6年 歴史 単元：天皇中心の国づくり

この日の授業では、まとめの時間に解説教材をモニタに投影し、先生の「せーの」の呼びかけに続いて、全員で解説教材を読み上げていました。

「ドリルだけでなく、他の使い方も試してみたいと思っていました」と戸守先生。解説教材は単元の要点がまとまっているため、授業内容を定着させるのに効果的です。クラスの全員が顔を上げ、しっかりと声に出し、要点を確認していました。

まとめの後は確認問題で内容の定着



▲確認問題を挙手で答えます

POINT! 積極的に参加する授業づくり

解説教材で要点を確認した後は、学習内容がしっかりと理解できているか確認問題で復習します。

授業の最後には先生が問題文を読み、児童は挙手して答えを発表していました。

直前に解説教材で要点を確認しているため、児童は自信を持って積極的に手を挙げています。先生の問いに多くの手が挙がる活発な授業が行われていました。

インタビュー 学力だけでなく、学習意欲や自己肯定感も高める教材

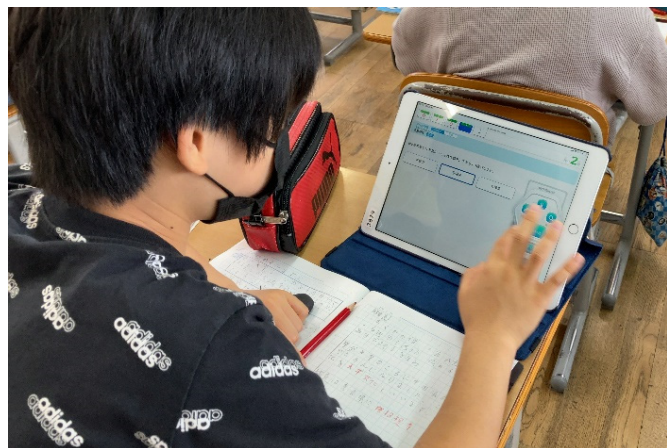
その場ですぐに問題が解け、正解か不正解がすぐにわかるところが、児童にとっても良いと感じています。児童は授業の内容が理解できているかどうか、確認のためにドリルを使い、正解すれば安心しています。

記述式のドリルでは、勉強が苦手な児童は何を書いたらいいかわからず、手が止まってしまいがちですが、eライブラリは選択式のため、少しでも知っている言葉や、これかな？という言葉を見つけて答えることができます。それが正解すると、勉強が苦手な児童も「正解した！」と自己肯定感に繋がっていきます。eライブラリは**学力を伸ばすだけでなく、児童の意欲を高めて自己肯定にもつながる教材**です。



教諭
戸守 雄亮先生

自分の理解度にあった難易度を選択して学習



▲ 授業のノートを確認しながら問題を解いています

POINT！ 操作に迷わず、自主的に学習できる

授業の最後は、ドリルで問題演習に取り組みます。ドリルの難易度選択は児童に任せているため、**一人ひとりが自分の理解度に合わせてドリルを選択して学習しています**。「取り組みの成果を自分で確認できるため、周りの児童とどこまで取り組んだか見せ合って所属感にもつながります」と戸守先生。「先生画面で児童の取り組みが見られるので、児童を褒めるきっかけが増えていきます」とのことです。

解説教材と確認問題

(例) 小学校6年 理科『日光とデンプン』

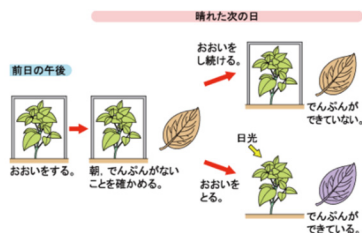
■ 解説教材

【ポイント】

- ・植物の葉に日光が当たると、**でんぷん**ができます。
- ・葉にでんぷんがあるかどうかは、**ヨウ素液**で調べることができます。
- ・葉の緑色をぬいて、ヨウ素液にひたすと、でんぷんがある葉は**青むらさき色**になります。

■ 葉に日光が当たるとでんぷんができるかを確かめる実験

日光に当てなかった葉と当てた葉に、ヨウ素液を用いて、でんぷんができているかどうかをそれぞれ調べました。



▲ ポイントがまとまっており、図版も充実しています

■ 確認問題

【かくにん問題】
ジャガイモの葉を使って、次の図のような実験を行いました。下の各問いに答えましょう。



1. 葉にでんぷんがあるかどうかを調べるには、何という薬品を使いますか。

答え

2. エタノールで葉の緑色をぬいてから調べる方法で、葉にでんぷんがあるかどうかを調べました。でんぷんがある葉を1の薬品につけると、葉はどのようなになりますか。次のA、Bから選びましょう。



答え

▲ 一問一答形式で答えをめくりながら確認できます

インタビュー 学習意欲の向上やICT機器の活用につながる教材

eライブラリは解答がすぐにわかり、児童たちはどんどん次の問題に取り組むことができます。操作も単純明快なので、高学年の児童だけでなく、低学年の児童も、簡単に一人一台のタブレットで使うことができます。特に外で遊べない雨の日は、休み時間にもeライブラリを使って学習している様子を目にします。

ICT機器の活用が必要不可欠になったときに、eライブラリがICT機器活用向上の一助となりました。授業で「eライブラリ使うよ」と声をかけると、児童の目の色や姿勢が変わります。学習教材として、すばらしい魔力を持っていると感じています。

最初はタブレットを使うことの興味から入っているかもしれませんが、**学習意欲の向上やICT機器の活用には、絶対につながる教材です**。これから少しずつ、学力に対する効果が見えてくることを期待しています。



校長
青木 春乃先生

※ 本紙の情報は取材当時（2021年度）のものです。